

上演

4



の ことなら 七
を 金 三
おもしろい

【青森県立青森中央高等学校】



楽屋インタビュー

1. 本番を終えて、どんな気分ですか？
色々なハプニングがあったけど、最後まで演じ切ることができてよかったです。もはやハプニングを楽しむ気持ちまでありました。
 2. 本番中にハプニングありましたか？



3. 思い出に残った台詞は？
「偽善者！ 人でなし！ 熊殺し！」

「レンジでチンしないでくれ、熱い、熱いよー！ チーン」

4. 大会期間中に部活内で流行ったワード・行為は？
インフルエンザが流行ってびびりました。標準語とOKPの練習。



お客様インタビュー



- 舞台装置に頼らず、人数の多さを植物や民主主義の表れとして最大限に生かした統制の取れた動きが、物語のクオリティを底上げしていた。
 - 歌やメリハリを用いた情景描写によって、異なる雰囲気への素早い切り替えを実現し、多人数ながらも場面転換を多用できる情報量の多い舞台へと昇華されていた。

運営委員が観た! この劇の感想

- 個々の役者の実力に圧倒された。全員の発声がしっかりしていて、歌声もきれいで、表情の使い方も良く、舞台装置を使わずに役者の身体で表現していて素晴らしかった。笑いどころとシリアルな場面との緩急が良く、自然と引き込まれた。最後の月を表現した照明も美しく感動した。役者も裏方も全てにおいて抜かりなく圧巻だった。 担当：松本(尚絅)
 - 一言では表せないほど、様々なメッセージが込められていた。宮沢賢治の「なめとこ山の熊」をベースに、時事問題やイジメ、戦争の悲惨さを盛り込んでおり、非常に見応えがある劇だった。観客に強く訴えるばかりでなく、ギャグやダンスのアクセントで観客の関心を引きつけ続ける絶妙な塩梅で、人生で一番短く感じた一時間だった。 担当：佐々木(仙台三)